

Part2 ベンダー動向

“人”をリアルに結ぶUC基盤

これまでは「コミュニケーションツールの融合」に重点が置かれていた感のあるUC。だが、分散ワークが本格的に広がり始めた今、訴求ポイントは「人」中心のコミュニケーション基盤の実現に移りつつある。

ワークプレイスが分散化すれば、コミュニケーション・コラボレーションツールの重要性は増す。UCベンダーはこの機を活かすため、どのような提案を行っているのか。Part2では、主要ベンダーの取り組みを紹介しながら、分散ワーク実現に向けたUC提案のポイントを整理していこう。

第1ステップは「紙からの解放」

「ワークスタイル変革の第1ステッ

プは『紙からの解放』。これをまず実現した後、第2ステップではオフィス内のどこでも働ける環境を作り、最後にオフィス外へとワークプレイスを広げていく

NECの小川氏は、分散ワーク実現に向けたシナリオとして、図表1のような3段階のステップを示す。情報の閲覧、伝達、共有を紙に頼っていたは、業務を行う場所は制限されたまままだ。資料等の電子化はもちろん、伝票などを使っていた業務フローを

PCデスクトップ上で完遂できるように業務システム化するという環境整備が、まずは重要になる。

NECでは、ドキュメント電子化や業務のシステム化からスタートし、印刷費や資料保管コストの削減効果を出しながらペーパーレス化を促進。その後、オフィス内でのモビリティを高めるために、無線LAN環境を構築したり、内線携帯電話を活用するなどのICTインフラの改善を進めるといった段階的なソリューション提案を行っている。

生産性向上だけでなく、各段階で明確なコスト削減効果も示しながら進めていく点もポイントだ。

前述の通り第1ステップでは、印刷・保管コストの削減を、そしてオフィス内外で場所にとらわれない働き方が可能になる段階では、フリーアドレス化と在宅勤務の浸透により、席数を削減してオフィス面積を圧縮できる。フロアコストや移動コストの削減といった“目に見える効果”も示せる。

プレゼンスの効果を浸透

分散ワークにおける効率的なコミュニケーションを実現しようとするれば、「人」を中心におき、各個人の業務スタイルに応じた端末やコミュニケーションツールを利用できる環境

図表1 紙からの解放により始まる場所に依存しないワークスタイル



出典: NEC